

絵で被災地応援

浦和区で親子らが参加



被災地に向けて海の絵を描く子どもたち

大きな白い布に、絵の具で色鮮やかに海の絵を描く子どもたち。さいたま市浦和区で開かれた「コミュニティーフェスティバル」で、子ども向けのアトリエ教室を開く「ひつじぐも」は東日本大震災の被災地に贈る絵を描くイベントを開催、浦和駅前の市民広場を行き交う子どもたちが参加した。

代表の戸口朱美さん(54)は、これまで教室の収益を基

に被災地で絵のワークショップを開くなどの支援をしてきた。「現地に行く」と悲しい思いをしている人がたくさんいる。皆で気持ちを込めて描いて、見た人が笑顔になってほしい」と話す。

午前中だけで約60人が参加し、「被災地に送るんだよ」と子どもに語り掛ける親が多く見られた。用意された長さ20尺の布は魚やクラゲ、タコなど海の生き物でいっぱい

だった。

描いた布は切って縫い合わせ、図書館の本を入れるエコバッグとして寄付する。目標は100人分。5歳の子どもと参加した桜区の定月由香さん(35)は「のびのびと楽しそうに描いていた。こんな形で少しでも応援できたら」と

話していた。

ひつじぐもは、バッグを一緒に縫ってくれるボランティアを募集している。問い合わせは、ひつじぐも(メールアドレス: hitujigumo@yahoo.co.jp)へ。

(タウン記者・高田彰子)